

東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会（第 39 回部会）会議録

日 時：令和 4 年 9 月 8 日（木）午後 7 時～午後 8 時 15 分
場 所：東淀川区役所出張所 3 階多目的室

【議事】

- 1 開会
- 2 部会長あいさつ
- 3 議題
(1) 情報提供
(2) 活動報告及び意見交換
(3) その他
- 4 その他
- 5 閉会

《配付資料》

- ・ 議事次第
- ・ 広報ひがしよどがわ令和 4 年 8 月号
- ・ 話題提供資料

1. 開会

2. 部会長あいさつ

- ・ 部会長欠席のため、指名により淡路地域部会員が部会長代理を務めた。

3. 議題

(1) 情報提供

【広報ひがしよどがわ令和 4 年 8 月号での連続立体交差事業の特集について】

(事務局)

- ・ これまで、区役所として連続立体交差事業について特集したことがなく、建設局と協力し事業の概要や進捗を整理し、広報としてとりまとめた。
- ・ 令和 10 年度の高架切替、令和 13 年度の事業完了に向けて進められるということで、区長もまちの未来については期待しているとコメントしている。
- ・ 広報について、地域から何か問い合わせ等があったか伺いたい。

(部会長代理)

- ・ 何故工事が遅れたのか、今後は遅れないのかといった疑問はある。

(事務局)

- ・ 工事への支障が出る可能性のある用地の買収が完了し、工事ヤードが確保でき目途が立ったと聞いている。今後は用地買収が完了せずに工事が進められないということにはならないので、大きくはブレないと思っている。

(久教授)

- ・ 駅と高架の整備は令和 10 年度で完了し、令和 11 年度から令和 13 年度の期間で側道や高架下の整備を行うということで良いか。

(事務局)

- ・その通りである。線路の撤去後、道路等の整備を行う予定で、少なくとも踏切は令和 10 年度に無くなる予定である。

【話題提供資料について】

(事務局)

- ・国勢調査等の結果を基に東淀川区西部地域の人口に関わるグラフや大阪市と区別の人口の移動率などのグラフを作成した。
- ・下新庄地域では連続立体交差事業に関わる資料を用いたワークショップが開催されたところ盛況だったと聞き、同様にワークショップの開催時に話題になるような資料にできないかと作成したものである。
- ・東淀川区の人口の移動率は 12.9%であることや民営借家率が高い地域は低い地域と比べて住民の入れ替わりが多い可能性が推測できる。他に東淀川区内で外国人が増えたというデータもある。
- ・他にもこのような仮説があるのではないかと提案頂ければ、資料を作成したい。

地域からの意見等

- ・転出入している人の年齢、性別が分かると話が広がると思う。
- ・コロナ禍で日本に住んでいる外国人は地域に根付いてそうなので発掘しても面白いかもしれません。
- ・データだけではなく、箇条書きでもいいので地域の傾向を記載して貰えると分かり易いように思う。

久教授のアドバイス要旨

- ・人口の移動が校区の内外なのかどうかが分かれば面白い。一番良いのは校区の中で人の移動が完結している場合である。郊外のニュータウンでは、子どもが大きくなって世代分離をする際に地域から出て行き戻ってこないことで、地域の高齢化が進むことが問題になっている。恐らく、東淀川区内には様々なタイプの住宅があるので、人の移動が地域の中で完結することができると思う。
- ・学生で在学中は大学の近くで住み、就職のタイミングで都心部に引っ越す学生がいる。東淀川区内のワンルームマンションにはそのような人が入って来ていると思う。
- ・ニュージーランド人の先生と話す機会があったが、ニュージーランドでは永住ビザを発行して貰えると、選挙権もあるしニュージーランド人と同じ公共サービスを受けられると聞いた。逆に日本では永住ビザだけでは制限があるので、外国人が定着し辛い。
- ・地域内でワンルームマンションが多く建つとこれまでの部会でも話題に出ているが、ワンルームマンションが増えている地域は、事業者にワンルームマンションの需要が高い地域だと思われていることが原因でもある。そのイメージを地域ブランドを作ることで変える必要がある。地域のブランドは決して高級じゃなくても良い。東淀川区は安心して暮らせるというブランドでいい。

4. その他

- ・次回の部会は 11 月 10 日（木）午後 7 時から、東淀川区役所出張所 3 階多目的室で開催予定。

5. 閉会

以上